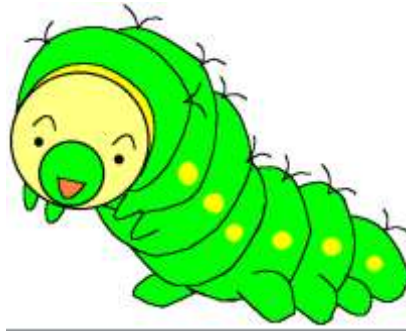


りょうぜん天蚕の会だより

【第 13 号】



発行責任者 りょうぜん天蚕の会 会長 菅野秀一（電話・FAX 024-586-3030）

【 当会の活動方針 】 霊山の豊かな自然環境を活かし、野蚕である「天蚕」の育成と、その飼育体験交流や独特の風合いをもつ萌葱色の繭・絹糸の新たな加工や商品化による地域特産品の創成をはかり、活力ある地域づくりを推進する。また、会員一丸となって繭の生産、新商品開発に取り組むとともに、小学校等への観察用天蚕配布、県内外天蚕関係者との交流及び展示PR活動等を行う。

春暖の候、皆様には益々ご健勝のことと存じます。平成17年2月に設立した「りょうぜん天蚕の会」はこの度13年目を迎えました。これもひとえに会員皆様の熱心な活動と設立以来、伊達市、伊達市観光物産協会、大日本蚕糸会、福島県関係機関等のご支援の賜と厚く御礼申し上げます。

28年度は、餌不足や幼虫の移動作業がないように山付けを（10,000個に）制限するとともに、檜の枝吹きが良好なため3度の山付（2,500個）を行ったことから、これまでに最良の約7,000粒を収穫できました。

特筆すべきは「天蚕布」を表地に「イノシシの鞣皮」を裏地に使ったコラゴ製品として「金封タトウ」と「財布」の新商品を試作し、その出来映えには大好評を得たところであります。また、天蚕製品が伊達市の「ふるさと納税の返礼品」に10点程登録され、全国から注目されているところでもあります。

29年度はこれらの成果と実績を基にさらなる増収発展を図る所存でありますので皆様のご支援ご協力をお願いいたします。（会長 菅野秀一）



母蛾検査 29年2月5日 中川集落センター

平成27年度総会開催

3月6日(日) 午後3時より霊山町「中川集落センター」において会員25名の参加のもと第12回総会が開催された。菅野会長の挨拶に引き続き伊達市霊山総合支所安藤支所長の来賓祝辞があった。会長が議長を務め27年度事業報告、一般会計報告並びに28年度事業計画、予算案が全員賛成のもと承認された。

総会に先立ち午後1時から全員で天蚕卵の袋詰めを行い春期の山付け作業の準備を整えた。総会後は郷土料理に舌鼓を打ち今年度の更なる繭生産増に向けて大いに語り合った。



大石小学校で繭工芸品づくり指導

2月9日(火) 午前8時30分より大石小学校において八島事務局長夫妻が繭玉工芸の指導を行った。10時15分までは5・6年生10名が各自3個の天蚕コサージュ作りに挑戦した。



1個は先生に、1個は家族(両親)に、1個は自分の胸に飾り卒業式典に臨むためのもの。

2時間に3個の製作を目指し一生懸命だったが、残りは自由時間に作ることとした。

また3～4校時には、3・4年生クラスにも指導を行った。生徒達はそれぞれ「馬」や「ウサギ」などの動物やおもちゃ作りを大いに楽しんだ。

使用した家蚕の繭は6月初めより同校において児童たちが自ら飼育し収穫した繭である。

飼育樹(エゾノキヌヤナギ)の剪定作業実施

3月12日(日) 館ハウスにおいてエゾノキヌヤナギも新しい芽吹きがみられるようになったので述べ8人の会員が参加し剪定作業を行った。マイマイガの卵の除去も実施する予定だったが幼虫時に除去しておいたためか卵の巣は殆ど見られなかった。

残作業分は13日に斎藤行応事業部長と柳沼良一会員で実施し、山付けの準備全てが整った。



天蚕山付け、ハウス整備を行う



4月24日(日) 朝8時半より会員21名による山付け作業とハウスのネット掛け作業を実施した。女性会員は2人1組となり、飼育樹木の芽の吹きだした枝に10卵入りネット袋1千枚をホッチキスで止めた。男性会員はハウスに上がりネットの覆合作業を行った。

ネットも10年を経ているのでいたるところに破れが見受けられるようになり更新の必要性が感じられた。

霊山こどもの村で繭工芸の指導

6月19日(日) 霊山こどもの村において天蚕繭と染色した家繭とを使用して様々なおもちゃやオブジェを製作する集いが開催された。会員4名(川辺、大友、八島事務局長夫妻)が指導に当たった。参加した子供たちは小学校低学年生が多く、モデルの「ペンギン」「小鳥」や「花」等を見ながら製作に取り組んだ。又、制作に先立ち八島事務局長が天蚕の特性や家繭との相違点等をパネルやエゾノキヌヤナギの鉢に付けた天蚕の幼虫を見せながら説明した。



天蚕の飼育法も指導

こどもの村に設置していた天蚕飼育ハウスは除染作業の際に撤去されたが、ハウスの外にあった2本のエゾノキヌヤナギが大株に育っていた。6月19日に見本に持参した天蚕の幼虫を放したところ翌々日早速繭を作ったと職員がスマホに撮って送ってくれた。この日の様子は霊山こどもの村のホームページに掲載された。

天蚕繭の収穫作業を実施

7月3日(日) 午前9時半より15名が参加して今年第1回目の繭収穫作業を行った。

餌不足等による幼虫の移動が無いように今年は山付けを10,000粒に制限した。だが孵化率が低かったことから回収率は3.3%(繭の収穫数は3,340個)であった。

ところが檜の枝吹きが良好だったので第3回目の山付け(2,480粒)も同時に行った。

2回目の収穫作業は7月16日(土)に八島時男氏ハウス、大橋亮治ハウスで行った結果 計6,050個となった。さらに3回目の収穫ができたので合計7,000個と最良となった。



霊山で天蚕の繭を収穫

天蚕(ヤママユ)を飼育し、繭玉を使ったアクセサリーやシルク製品づくりなどを行っている、「りょうぜん天蚕の会」(菅野秀一会長)は3日、伊達市霊山町にある天蚕の飼育ハウスで繭の収穫作業を行った=写真。約25人が参加。約5千個の繭を採集し、アクセサリーなどの工芸品用や絹糸用、子どもたちの工作用などに選別した。飼育ハウス内の樹木に、天蚕の卵が入ったネットを取り付ける「山付け作業」も行った。

福島民友新聞 (7月7日)



天蚕繭6000個を収穫

伊達市霊山のりょうぜん天蚕(てんさん)の会は三日、同町中川地区の飼育ハウスで天蚕繭の収穫をした。菅野秀一会長ら二十人が参加した。参加者は天蚕がさなぎとなり、エゾノキヌヤナギに取りつけた薄い緑色の繭を一つ一つ丁寧に取った。この日の作業で約六千個の繭を集めた。同会は日本固有の天然の蚕飼育を通して地域おこしをしている。繭からはもえぎ色の生糸が取れる。生糸で織られた天蚕布はハンドバッグやショールなどに加工される。

福島民報新聞 (7月9日)

伊達市東京見本市に出品



10月24日(月)～25日(火) 東京で伊達市特産品の展示会が行われた。展示会には当会の天蚕ハンドバッグやショール、アクセサリーなど10数点出品して参加者の注目の的となり質問が相次いだ。この注目度から伊達市の「ふるさと納税の返礼品」に数点選ばれることになった。高額納税者には納品期間を延長してでも天蚕商品を勧めたいとの市の担当部局の意向である。

天蚕まつりを開催

10月1日(土)～2日(日)の両日 阿武隈急行保原駅構内で恒例になった「天蚕まつり」を開催した。今年は1階フロアでコサージュ作りの体験を行ったことや会員によるダイレクトメールが功を奏し昨年より多くの体験者が訪れた。展示品では、瓜田会員からの提供生糸「ふい絹」と天蚕の草木染とのコラボ「ハーフショール」が目玉として展示された。

このショールは以前より瓜田氏は「落ち着いた草木染＝紫根染・蘇芳染と天蚕糸とのコラボが合う」と注目していたもの。

後日「大日本蚕糸会」蚕糸科学研究所のショーケースに展示される「見本的」商品である。会員各位の誘客の効果が出て昨年度より4割増の売り上げとなった。



「天蚕まつり」の様子



福島民報新聞 (9月29日)



福島民報新聞 (9月29日)

日本野蚕学会にて作品展示

10月28(金)～29日(土)の両日、岩手大学「盛岡市産学官連携研究センター」で第22回日本野蚕学会が開催され、菅野会長、瓜田副会長、三田村会員が参加した。

瓜田氏は「カイコ及び野蚕セリシンパウダーの効率的な抽出法」、三田村氏は「天蚕奄美以南亜種の生態解明」他について研究発表するとともに司会を務められた。

ロビーの展示会場には14団体から出展があり見事な商品が並び質問説明で賑やかであった。

当会からは「ハンドバッグ」「ショール」等を展示、作業活動を説明した。特に「卵から製品に至るまで一貫作業」を我々会員が行っていることに大勢の方からお褒めを頂いた。



研究発表会場 (上)



ロビー展示会場 (右)

霊山町文化祭に展示

10月29日(土)～30日(日)の両日開催された霊山町文化祭に天蚕品の協賛展示を行った。

展示説明には八島時男会員と八島事務局長が行い、高価な帯展示に感嘆の声が上がった。

また「このような機会でないとは購入できないから」と来場者の一人はアクセサリー4点を購入いただいた。



掛田小学校で繭工芸品づくり指導

11月1日(火) 掛田小学校で3年生35名が自分たちで育てた繭を使って工芸品づくりを行った。あらかじめ5色に染めた繭を思い思いに形とする創作に勤しんだ。八島事務局長夫妻の指導と島貫会員のユーモラスな会話が弾み、様々な動物のモデル作品を模作しようと挑戦していた。中には兎の家族とか友達と車に乗っている作品もあり子供たちの発想の豊かさに感嘆したところである。



子供たちの作品



島貫会員の指導の様子 「天蚕先生！ここどうするの」

東京ふるさと霊山会で展示

11月12日(土) 東京上野「紅天広」レストランにおいて「東京ふるさと霊山会」が開催され菅野会長が出席した。関東地区在住の霊山町出身者65名が集い旧交を温めた。

懇談の中、出展各団体の発表の機会が設けられ天蚕会の活動と商品の説明を行い好評であった。



ネット外し作業、菅野公会員の新居で納会

12月4日(日) 男子会員10人、女子会員4名が参集しネット外し作業を実施した。前もって島貫会員が高い部分のパッカーを外してくれていたため作業ははかどった。

撤去作業後は27年末に新築した菅野公会員の新居に移動して納会・反省会を行った。音響に配慮した二間続きの大空間で菅野公会員のフルート演奏を聴きながら女子会員4名が腕をふるった「芋煮」と愛華夢の「中華料理」に舌鼓をうちつつ来期の活動を語り合った。



ネット外し作業状況(左) 菅野公宅での反省会(上)

上保原小学校でコサージ作りを指導

2月21日(月) 上保原小学校で6年生と父兄あわせて76名が参加し天蚕コサージ作りに挑戦した。当会からは川辺、大友、八島恭子の3名が指導に当たった。天蚕を知る方も数人いたが、親子共々緑色の繭のコサージには大いに感激したようである。

小学生を通して父兄の皆さんが天蚕を知り、その魅力に魅かれて取り組む機会が年々増加していることは好ましい傾向である。



天蚕の会に感謝の手紙届く

1月29日、群馬県太田市の斉院純子様より八島事務局長夫妻に感謝の手紙が届いた。インターネットで「天蚕ショール」を購入いただき、また電話での問い合わせに対しても恭子さんの懇切丁寧な説明に感動されたとのことである。



先日は、素敵な天蚕ショール
ありがとうございました。自然、作物
の物に感動しました。
早速 母にプレゼントしたところ「まさか手に
入るなんて思わなかった。一生の宝物だね。」と
喜んでくれました。サービスで頂いたストラップ
とブローチもがっかりです。
奥様より聞いた話も 母に伝え 貴重な
文化を存続させる難しさと、地域の
群馬でも養蚕農家に減っている話をしました。
伊達市も、インターネットなどを使ってもっと
発信して頂けると日本中に天蚕商品をも
欲しがっている人が多くと思いました。
最後になりましたが、息の電話に
ていねいな対応に頂いた奥様に
感謝申し上げます。ありがとうございました。
これから寒い日が続きそうですが、御身体を
大切になさってください。



斉院 純子

母蛾検査を実施

2月5日(日) 9時から中川集落センターにおいて
会員16名が参加し天蚕母蛾検査を実施した。
伝染性病原菌に冒されていないか優良種保存には欠
かせない重要な作業である。

今年の試験献体は141体(昨年は170体)。検査の結果2体において
疑わしい物が発見された(全体の1%になる)。

米沢市赤崩の山岸大典様(山岸草
木工芸)が研修にお出でになり一緒に
作業を行った。

自然の素材を相手に製品にする努
力と苦労を共に語り合った。

(状況写真を表紙にも掲載しました)

福島民友新聞 (2月9日) 右上
福島民報新聞 (2月10日) 右下



猪(イノシシ)の皮と天蚕布とのコラボ商品を試作

前会長の柳沼泰衛氏が「農作物を荒らす猪は有害獣として捕獲されて処分されるが、猪の皮と天蚕とのコラボは出来ないのか」と良く言っておられた。八島事務局長は「あのままではワールド過ぎて硬い皮では華麗な天蚕布とのコラボは合わない」と疑問視してきたところ、この度、霊山森林公社では「猪皮を染色し鞆皮とすることにより多様性が増した」との話があったことから、天蚕布とのコラボ製品として早速「金封タトウ」を試作してみた。落ち着いた藍色の鞆皮と天蚕布に違和感はなく、手にした方々からは大評判であった。

また、黄色に染めた猪皮の裏地に天蚕布を施した財布も「粋な財布」として愛用されそうだ。

猪皮も天蚕布も共に霊山産というところに作品に物語性が伴い、他地区には見られない特産品になると思われる。



天蚕品が伊達市「ふるさと納税返礼品」に登録される

10月行われた「天蚕まつり」や東京で行われた「特産品展示会」での利用者の好評に応じて伊達市の「ふるさと納税」の返礼品に10点程登録された。

ふるさと納税は年々認知度が上がると共にその返礼品が評判となっている。

しかし、多くが果物や牛肉などの食料品に限定され季節限定品となっているので「他の市町村には無い物」という市担当部局の発案から今回の運びとなったもの。29年度よりインターネットで「ふるさと納税ナイス・チョイス」で商品紹介されます。ご覧下さい。



管野まひろさん 天蚕研究で連続の特選！



10月19日(水) 保原小学校5年生の管野まひろさんが「ヤマユガの研究」(第2弾)で福島県小学校理科作品展で「特選」に選ばれた。昨年に続き連続の受賞である。

2月5日(日)の母蛾検査にお母さんと参加し一緒に作業をしながら研究内容を発表してくれた。「ヤマユガの一生を追いかける」と題し、卵の孵化から繭のふ化、成蝶までを観察記録し感想課題を詳細にまとめている。

A3版紙で厚さ3cm程の大作である。(写真参照)

会員みなさんから「我々の飼育テキスト以上の出来映えだ」と連続の快挙に拍手喝采であった。

4月からは6年生になるので集大成として「繭から生糸へ」の研究に取り組みたいとのこと。まひろさんは「りょうぜん天蚕の会だより」第12号で第1弾の受賞を紹介したお嬢さんです。

会員の活動スナップ



斎藤行応事業部長の総指揮でネット張り作業(上左)



ネット外し作業を終えて一服(上右)



機織り作業の八島恭子会員(下)



収穫を待つ天蚕繭



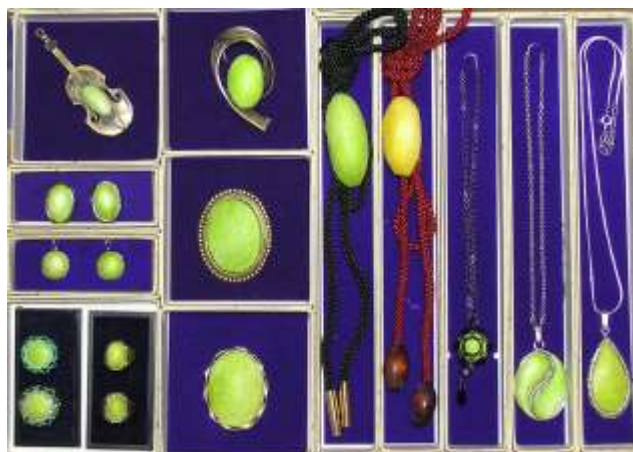
繭の選別作業



母蛾検査の様子(下)



製品の数々



トピックス

天皇陛下退位に強い思い

天皇陛下は8月8日、ビデオメッセージで皇太子さまに皇位を譲る退位の実現に強い思いを示された。政府の有識者会議は、退位に要件を設けて恒久制度化するのは困難との認識で一致。政府は2018年の退位を視野に入れた来年の通常国会で「1代限り」の特別法制定を目指す。

陛下、生前退位の意向



震度6続発 死者41人



熊本地震で2度の震度7、鳥取県中部で震度6弱

4月14日夜 熊本県で最大震度7の地震が発生、同16日未明に再び最大震度7の地震が起きた。地震活動は大分県にも及び、両県の避難者は最大で約19万6千人に。関連死も含め犠牲者は150人を超えた。10月21日には鳥取県中部で最大震度6弱の地震が発生し、20人あまりが負傷した。

参院選与党大勝、衆院含め改憲勢力3分の2超

7月10日参議院選挙で自民、公明の与党が大勝した。この結果、改憲に賛同する勢力が衆参両院で憲法改正の発議に必要な3分の2以上を占める状況になった。11月、衆院憲法審議会が約1年5ヶ月ぶりに実質的な審議を再開。自民党は改正に向けた論議を加速するよう呼びかけた。

憲勢力3分の2超



大統領トランプ氏



米大統領にトランプ氏

米大統領選は11月9日、共和党トランプ氏が世論調査の予想を覆し民主党クリントン氏に勝利。共和党は8年ぶりに政権を奪還、上下両院選でも過半数を維持した。トランプ氏は大統領就任日に環太平洋連携協定（TPP）脱退を通告すると表明。日本など同盟国に米軍駐留経費の負担増も求めている。

英、国民投票でEU離脱決定

英国は6月24日、欧州連合（EU）離脱の是非を問う国民投票を実施し離脱派が勝利。キャメロン首相は辞任しメイ氏が7月、新首相に就任した。新首相は2017年3月末までに離脱交渉を開始すると表明。イタリアでも12月改憲を巡る国民投票で反対派が勝利、提案したレンツィ首相は辞任に追い込まれた。世界的にポピュリズム（大衆迎合政治）の勢いが加速。

英、EU離脱へ



朴大統領の弾劾可決



朴韓国大統領辞意表明

韓国の朴槿恵大統領は11月、親友による国政介入疑惑の責任を取り任期満了前に辞任する意向を表明。韓国国会は12月、議員8割弱が賛成し大統領の弾劾訴追案を可決。大統領の職務は停止となり国政の混乱は長期化。

